アートイベント

輪潭リミックス2022

荒木 悠 | 身体0ベース運用法
Load na Dito | Yukawa–Nakayasu

■２０００年代以降、日本各地で地域の活性化や魅力あるまちづくりの支援のため、さまざまなアート・プロジェクトが展開されています。
■京都府南丹市でも、招聘および公募により集った６名のアーティストたちが、各自が設定したテーマに沿って南丹地域の風土や歴史等を調査し、そこでの発見を活かしたアートプロジェクトや作品のプランを練ったアーティスト･イン･レジデンス事業「京都 :Re–Search 2020 in 南丹」と、そのプランをもとに約３ヶ月間八木町に滞在しながら、地域の新しいアートドキュメント作品を制作、発表したアーティスト・イン・レジデンス事業展覧会『大京都 ２０２１ in 南丹｜南譚: 介在する因子』が実施されました。
■南丹市以外にも、２０１６年以降、京丹後市や舞鶴市、京田辺市、和束町など、京都府全域でアーティスト・イン・レジデンス事業が実施され、いくつものアートドキュメントが紡がれました。
■地域とアートの邂逅により（良くも悪くも）誘発された化学変化がどのようなものだったのか。そして今後、さらなる変化が起こり得るのか。『大京都 ２０２１ in 南丹』の舞台となった南丹市八木町で、アーティストと地域の人たちがともに考えるアートイベント『Nantan Remix 2022』を開催します。
■本アートイベントは、❶美術展覧会と❷アーティストトーク、❸タウンミーティング、❹ラウンドテーブル・ディスカッションの４つのプログラムで構成されます。
■美術展覧会では、南丹の人や歴史を題材にした映像［荒木悠］のほかに、保津川（＝大堰川）の文化にインスパイアされた表現［身体０ベース運用法］や、和束町という南丹市とは異なる文化的背景を持つ場所で生み出された作品［Yukawa–Nakayasu］を南丹バージョンに再編集して展示することで、地域とアートがどのように接続 / 再接続され得るのかを例示しようと試みます。
■アーティストトークは、展示された作品やその背景にある物語について、アーティスト本人がプレゼンテーションします。
■タウンミーティングでは、南丹市の姉妹都市フィリピン・マニラ市との「国際芸術祭『南丹アートフェスティバル２０２３（架空）』を考えてみる」と題し、来年、南丹でアートフェスティバルを開催するとしたらどのような企画が考えられるのか、地域の人たちとともにアイデアを出し合います。南丹市とマニラ市は、戦国武将で八木城主の内藤ジョアンがキリシタン追放令により高山右近らと共にマニラへ追放され、その地で死去したという史実をきっかけに、１９８５年８月２１日に姉妹都市となりました。ジョアンというひとりの人間の生き様により結びつけられた２つのまちを、アートの視点を交えることでどう再編集 / 再接続し、次のフェーズへと展開させていくことができるでしょうか。
■タウンミーティングには、マニラを拠点に活動するリサーチとアート・プロジェクトのためのモバイル・プラットホーム Load na Dito（ロード・ナ・ディト）のメンバーも Zoom で参加します。マニラのアーティストたちの視点も交えることで、より多角的で魅力的な企画案が生まれることが期待されます。
■ラウンドテーブル・ディスカッション「地域とアート｜アートと地域」では、様々な土地で滞在制作、作品発表をしたことのある本プログラム参加アーティストたちが、アートやアーティストが地域と交わるときに起こる諸問題について、これまでの経験を元に話し合います。
■アーティストがアートによる地域活性化についてどう捉えているのか、アーティストにとっての地域の魅力とはどのようなものなのか、自身の作品の題材として地域資源を取り扱うことについての是非や、これまでどのような点に配慮して活動してきたのか…
■アーティストの視点から始まるディスカッションですが、地域とアートを考えるときに「地域の視点」は決して欠かすことができません。アーティストと地域の人たち、さらには本イベントに来場された全ての人が、フラットな立場で、双方向的に意見交換できるような場になればと考えています。ぜひご気軽にご参加ください。

すべて入場無料

■主 催｜京 都：Re–Search 実行委員会（京都府ほか）
■後援｜南丹市
■助成｜令和４年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

美術展覧会　Nantan Remix 2022

10/10(月･祝)・14(金)–17(月)・21(金)–23(日)　11:00–17:00

南丹市八木町JR八木駅前商店街［ちびねこ映画館｜川定｜オーエヤマ・アートサイト］

アーティスト｜荒木悠｜身体０ベース運用法｜Yukawa–Nakayasu

アーティストトーク

10/23(日)　13:00–14:30　集合場所｜みんなの TERAKOYA おおいがわ

アーティスト｜荒木悠｜身体０ベース運用法｜Yukawa–Nakayasu

タウンミーティング

国際芸術祭『南丹アートフェスティバル 2023（架空）』を考えてみる

10/22(土)　14:00–15:30　開場｜13:30

南丹市八木市民センター 文化ホール

アーティスト｜Load na Dito｜Yukawa–Nakayasu

ファシリテーター｜宮下忠也［京都府南丹地域アートマネージャー］

ラウンドテーブル・ディスカッション　地域とアート｜アートと地域

10/23(日)　15:00–16:30　開場｜14:30

南丹市八木市民センター 文化ホール

アーティスト｜荒木悠｜身体０ベース運用法｜Yukawa–Nakayasu

ファシリテーター｜宮下忠也［京都府南丹地域アートマネージャー］

■詳細情報　https://kyotohoop.jp/program/nantan2022/

KYOTOHOOP
文化芸術による「ヒト･モノ（場）･コト」を、京都府域に繋ぎ･育む取組『京都府域文化創造促進事業』についての情報を発信しています。

撮影：黒田 菜月

荒木 悠 | Yu Araki

アーティスト・映画監督

１９８５年生まれ。文化の伝播や異文化同士の出会い、またその過程で生じる誤解や誤訳の持つ可能性に強い関心を寄せている。特に、近年手掛けている映像インスタレーションでは、歴史上の出来事と空想との狭間にある物語を編み出し、再演・再現するような手法を展開している。

２０２２年は、無人島プロダクション（東京）と RC HOTEL 京都八坂（京都）での個展に加え、大阪中之島美術館からのコミッション・ワークや、京都市京セラ美術館ザ・トライアングルでの『彦坂敏昭: 砂のはなし』展内にて新作を発表した。

http://yuaraki.com/
@ikarauy

《Almost There》(2021)　Image courtesy of Kamloops Art Gallery

Load na Dito | ロード・ナ・ディト

リサーチとアート・プロジェクトのためのモバイル・プラットホーム。平野真弓とマーク・サルバトスによって 2016 年から活動開始。型にはまらないプログラムの企画・実施の方法を試している。人、もの、イメージやアイデアが自由に反応しあうような状況作りに取り組み、「参加」や「協働」という言葉 に含まれる問題と可能性を探っている。

平野真弓 | Mayumi Hirano

キュレーター・Load na Dito Projects主宰

撮影：Mark Salvatus

フィリピン大学ディリマン校芸術学部講師。アーティストが主宰する芸術祭や展覧会の調査を行なっている。

Mark Salvatus | マーク・サルバトス

アーティスト　撮影：Zaldine Alvaro

フィリピンのケソン・シティを拠点に活動中。マニラのサント・トーマス大学美術デザイン学部で広告美術を学ぶ。これまで、アジア・アート・ビエンナーレ２０２１（台湾）、第2回ラホール・ビエンナーレ（パキスタン | 2020）、シャルジャ・ビエンナーレ１４（UAE | 2019）、光州ビエンナーレ２０１８ PCAN パビリオン『How Little You Know About Me』（韓国 | 2018）、『サンシャワー：東南アジアの現代美術展 １９８０年から現在まで』（森美術館 | 2017）、ヴェネツィア建築ビエンナーレ・フィリピン館（イタリア | 2016）、SONSBEEK International（オランダ | 2016）など、さまざまな展覧会で作品を発表している。Load na Dito Projects 共同設立者。

https://loadnaditoprojects.cargo.site/

撮影：来田 猛

身体０ベース運用法 | Shintai Zero-Base Unyoho

染色作家 安藤隆一郎による「ものづくりの視点」から考える身体論で、ものとの関わりから生まれる身体の感覚、運動、機能をゼロから見直し、人間本来の身体の運用法を見出す試み。医学やスポーツといった専門的なものとしてではない、私たちの身の回りにある身体を、アートというツールを用いて翻訳し、伝えることで、身体の消えゆく未来へ向けてその可能性を問い直している。

２０１６年活動開始。２０１７年には会場をジムに見立てた体験型展示『0GYM』（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA）を開催。ワークショップやレクチャーを多数実施。

安藤 隆一郎 | Ryuichiro Ando

染色作家

１９８４年京都生まれ。京都市立芸術大学工芸科染織専攻修士課程修了。京都市立芸術大学染織専攻講師。

https://www.shintai-0-base.com/
@shintai.0.base

撮影：吳太 普

Yukawa-Nakayasu | ユカワナカヤス

アーティスト

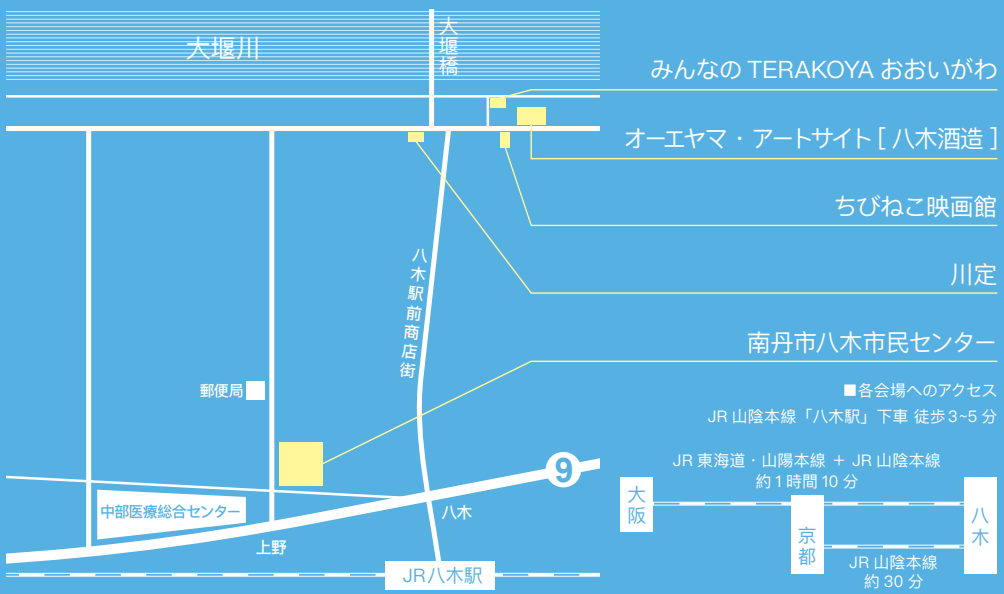
１９８１年大阪府生まれ。歴史や習俗や習慣をもとに、社会や身体、日常に内在している営為や現象を視覚化する作品を制作。特に、近年では「生命の循環」まで視野を広げ、生命の営みとその現象との相互関係に着目している。

２０１９年からアートハブ TRA-TRAVEL を立ち上げ、２０２０年には『ポスト LCC 時代の　　』（ 京都芸術センター ）などの展覧会をプロデュースした。また、京都府等が実施したアーティスト・イン・レジデンス事業『京都 :Re-Search』(2019)、展覧会『大京都 2020 in 和束』のゲストアーティストとして、和束町にて滞在制作、作品発表をおこなった。

http://yukawanakayasu.net/
@yukawa_nakayasu

NANTAN KOMIN 2022

荒木 悠 | 身体０ベース運用法 | Load na Dito | Yukawa-Nakayasu



■新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、実施内容を変更・中止する場合があります。
■マスクの着用、手指のアルコール消毒、互いの距離を１～2mあけるなど、感染拡大防止の徹底にご協力ください。
■発熱等の症状がある方はご来場をお控えください。
■「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」、京都府新型コロナウイルス緊急連絡サービス「ここころ」の導入をお願いします。

問合せ：京都府南丹広域振興局　企画・連携推進課
南丹地域アートマネージャー（宮下）
Mail a-08016@pref.kyoto.lg.jp
Tel 0771-24-8430（月曜～木曜 9:00-17:00）